

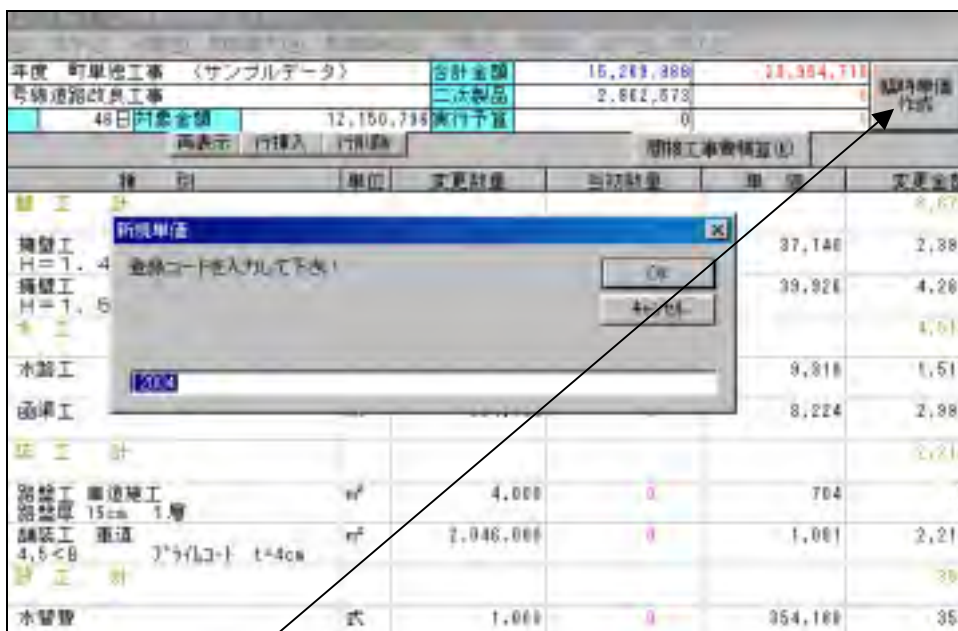
積算資料単価データベース及び機械損料データベースの使い方

財団法人経済調査会の積算資料単価データベース及び、社団法人日本建設機械化協会の建設等機械損料データベースの参照方法について説明します。

積算資料単価データベースには、静岡地区の共通資材編・土木資材編・土木市場単価編が含まれます。年2回、4月、10月のデータを提供できる予定です。機械損料は年1回4月の予定です。

静岡地区の単価ですので、生コン等地区単価の部材については、従来どおり、共通基本単価を分類から選択する方法等で積算してください。

1. 内訳表、明細表から新規臨時単価の作成で参照できます。
内訳表から作成する場合について説明します。

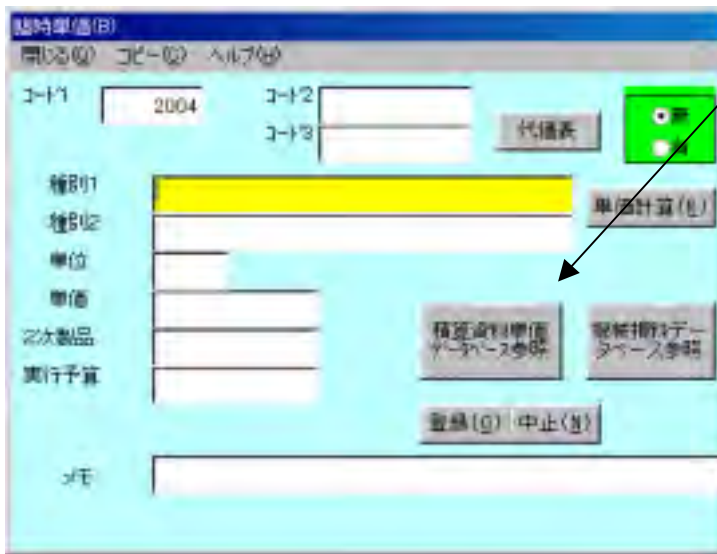


種別	単位	変更数量	当初数量	単価	変更金額
舗装工				37,140	2,881
舗装工 H=1.4				39,926	4,200
舗装工 H=1.5					4,614
水留工				9,810	1,515
函渠工				8,224	2,889
正工計					2,214
路盤工 車道補工	m ²	4,000	0	704	2,816
路盤厚 15cm 1層					
舗装工 車道	m ²	2,046,000	0	1,081	2,211
舗装工 車道 2'5(汎用) t=4cm					
正工計					304
水留費	式	1,000	0	354,100	354,100

上図 右上の臨時単価作成ボタンをクリックします。これは、メニューの新規臨時(B)の単価(T)と同じ処理のものです。単価コードは、デフォルトで2000番から自動的に決定されますが、他の番号に入力しなおすこともできます。(2000から9999までの番号を推奨します。)

明細表にも同様に、臨時単価作成ボタンを追加しました。

2. 臨時単価作成画面で 積算資料単価データベース参照ボタンをクリックします。



3. データベース参照画面が表示されます。
下記画面左下の分類から 目的の分類をクリックします。
該当データが上の表に表示されます。



各項目の幅は、項目名の行で、項目の境界線をドラッグすることで変更できます。

4. 目的のデータの行をダブルクリックしますと、臨時単価作成画面の種別 1,2 及び単位、単価に自動的に入力されます。



取り込む際に、全角カタカナ、数字は半角に変換されます。(単位は除く)
ただし、入力文字数の制限で全文字取り込みができない場合がありますので、
ご注意ください。

5. 品名または、備考(メーカー)の文字による検索ができます。
メニューの品名検索、備考検索をクリックして、検索する文字を入力してください。
6. メニューの印刷(P)で、表示されたデータを印刷できます。
損料の場合には、1つのデータに対し、3枚使用します。

7. データベースのフォルダを変更したい場合は、メニューの データベース設定 を クリックします。



積算資料単価データベースは、ファイル名 dbdata.mdb、機械損料データベースはファイル名 mdbdata.mdb となっています。

デフォルトでデータベースをインストールした場合は、C:\¥adata フォルダに格納されます。また、土木、農林、水道、港湾、民間でもデータベースの参照ができますが、すべて共通となっていますので、土木でデータベースのフォルダを変更した場合は、他の積算システムでも、自動的に変更されます。

データベースがハードディスクにインストールされていない場合は、臨時単価からデータベース参照ボタンをクリックしたところで、上図が表示されます。

直接CDROMを指定することも、できます。CDROMのフォルダ adata に両方のデータベースが格納されています。